

# 来年度の予算などについて なすまどか議員が反対討論を行いました

3月15日市議会最終日、なすまどか議員は来年度予算や国民健康保険会計などに対して、反対討論を行いました。

来年度予算については、生活保護世帯（国の助成制度から除外された方）へのエアコン設置予算、産後ケア事業、妊娠相談支援体制強化事業、子どもに対する居場所支援や権利擁護推進事業などについては評価できるものです。また、子どもの医療費助成制度について、年齢の拡充とともに薬剤への自己負担廃止は評価できるものの、医療費の自己負担をとっている県内自治体は熊本市を除けば、宇城市のみであり、完全無償化に向けた取り組みを要望しました。

そのほか、「10分20分構想に関する高規格道路の調査予算」については、3000億円から4000億円規模の事業となり、財政悪化を招き、市民サービスが犠牲になるとして中止を求めました。「本庁舎整備のあり方に関する有識者関連経費」については、耐震性を議論した分科会が非公開、議事録も不開示であり、建て替えありきで進めていくべきではないことを指摘しました。

このほか、給付型奨学金の拡充、学校給食費の無償化、国民健康保険料や介護保険料・利用料の軽減など、市民生活を守るための予算の拡充を求めました。

## 【3月議会の主な議案の賛否】

○：賛成 ×：反対

(内容)	共産党	熊本自民	自民	市民連合	公明	白河部	緒方
2023年度一般会計予算	×	○	○	○	○	○	○
2023年度国民健康保険会計予算	×	○	○	○	○	○	×
2023年度介護保険会計予算	×	○	○	○	○	○	○
認知症の人も家族も安心な社会構築を求める意見書（案）	○	○	○	○	○	○	×
高等教育の無償化を求める意見書（案）	○	×	×	○	×	×	○
旧優生保護法による不妊手術被害者の早期全面救済を求める意見書（案）	○	×	×	○	×	×	○

### 【控室から】 旅立ちの日

なすまどか

いよいよ長女の小学校卒業式を迎えることになりました。あっといふ間の12年間でしたが、入学時のランドセルを重そうに背負う姿、自転車の補助輪をはずし練習したこと、学校での様々な悩みに相談にのったことなど、様々な思い出とともに、私も親として一緒に成長させてもらったなあと感じます。

6年間の小学校生活の中で、半分の3年間は新型コロナウイルスのなかで過ごしたことになります。友達ともっとも話したり、騒いだり、遊んだりしなかったことでしょうか。こうした困難があるなかでしたが、長女なりに自分を大切に、成長してくれたことをうれしく思います。

教員の方々も、日々子どもたちのふとした変化に気づき、温かい声かけや指導をしてくれました。地域の方々も、下校時に危険な交差点などに立ちながら子どもたちの安全を守ってくれました。

多くの人々のこころ配りや支援があったからこそ、今の自分がいることをしっかりと自覚してほしいと思います。

来年度はいよいよ中学生。「父ちゃんの服とは一緒に洗濯せんぞ！」など言われる日が来るのか？今後子育てを楽しみたいと思います。



上野みえこ  
(中央区)



なすまどか  
(東区)

日本共産党

熊本市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1  
発行：日本共産党熊本市議

NO. 1316

2023年3月26日号

電話 328-2656

FAX 359-5047



メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団

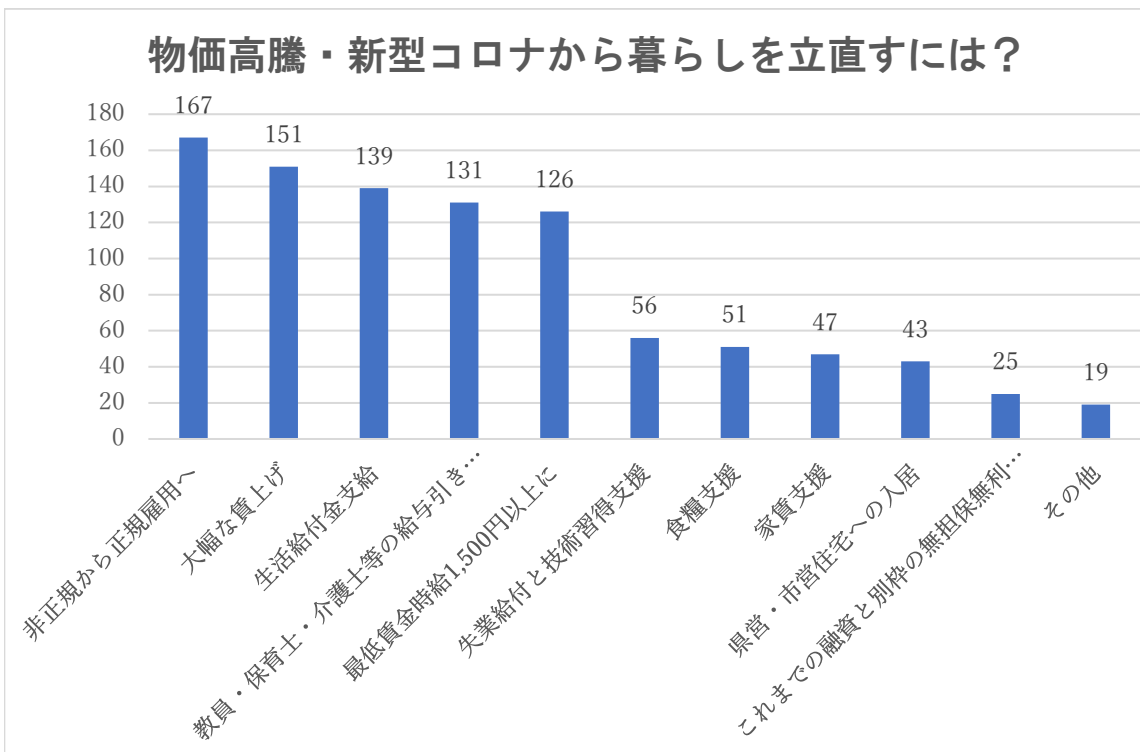
検索

## <2023年市民アンケートに寄せられた声>



# 物価高騰・新型コロナから暮らしを立て直すには 賃金引上げ・労働者の処遇改善を

日本共産党県議・市議団で、今年1月から行ってきた市民アンケート結果の一部を紹介します。



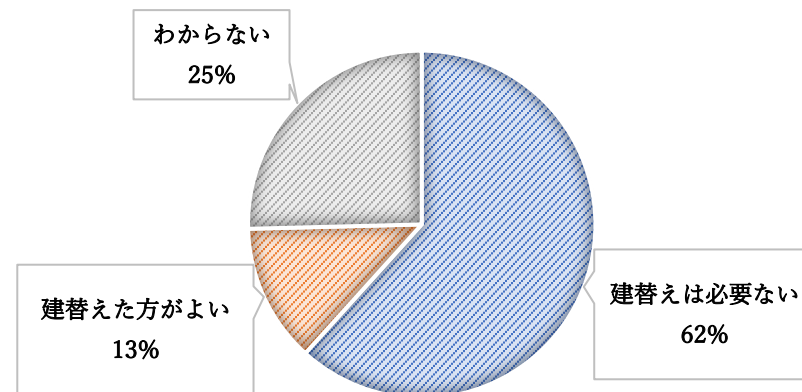
上位5位のうち、4つは雇用に関する要望です。(1)非正規から正規雇用へ、(2)大幅な賃上げ、(3)教員・保育士・介護士等の給与引き上げ、(4)最低賃金時給1,500円以上に、を希望する人が575人、6割に上ります。

3位が「生活給付金支給」で、多くの方が暮らしを守る直接的な支援を求めています。

日本共産党市議団は、3月議会で、非正規雇用の改善、困窮世帯・事業者への支援、新たな融資制度などを求めました。

## 圧倒的な市民が「庁舎建替えは必要ない」

### 市庁舎建替えは必要でしょうか？



6割以上の方が「建替えは必要ない」という回答です。

一方、「わからない」という人が4人に1人です。市庁舎建替え問題についての説明責任が果たされていません。

### 建替え前提のような「有識者会議」と、市民の思いは乖離

3月10日に第4回目の会議が開かれた市長の諮問機関「庁舎整備に関する有識者会議」では、建替えが前提のような議論が行われています。

しかし、圧倒的な市民は「建替えは必要ない」と考えており、

有識者会議と市民の思いは乖離しています。

今後は、「わからない」という声も多く、市民への説明責任を果たし、市民的論議を行い、市民が納得のいく方向ですすめていくことが求められます。